

泉のほとり

●三位一体後第一八主日

今日の詩篇「第九五篇」

深い地の底も御手の内にあり
山々の頂きも主のもの。



なすべきことを

ただけです

キリストは「からし種一粒ほどの信仰があれば、桑の木に「抜け出して、海に根を下ろせ」と言っても、あなたに従う」と言われました。からし種はこの紙面に書かれている点々」ほど小さなものです。

イエスご自身は桑の木を従わせて海の中に植えるようなことはなさいませんでした。しかし福音書は万物がキリストに従っている事実を見せています。例えば、嵐の湖の中で、嵐と波に向かつて「黙れ、静まれ」と言われたことがありました。湖がそれに従って凪になりました。その時、弟子たちには「なぜ怖がるのか。まだ信じないのか」と言われたのです。これは「からし種一粒」ほどの信仰があれば、波風もあなたに従うと聞こえてくる言葉です。

万物が神さまに聞き従っています。ところが聖書はその中で人間だけが常に「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出るすべての言葉によって生きる」と、戒め、教えなければならぬ、その人間の不信の歴史を伝えています。人に最も必要なのは桑の木や湖を従わせるのではなく、まず人こそ神の言葉に従う信仰です。その信仰なくして「からし種ほどの信仰」とは、嵐を迫るような言葉になってしまいます。

キリストはもう一つ、「忠実な僕」の話もされました。主人に「取るに足りない者です。なすべきことをしただけです」と言う忠実な僕です。神の前を生きる、神に従う本来の人の姿を表しています。何よりも、キリストご自身、神の完全な僕となられて、私たちに「従順」を教えてくださいました。波風を従わせたキリストは十字架の死に到るまで神に従順でした。神はそのキリストにすべてのものを従

わせる力と権限をお与えになったのです(フィリピ2章8、9参照)。完全な僕となられ、ご自分のなすべきことをなしてくださいました。

牧師は牧師として聖書を読むこと、神さまの言葉を求めることを怠ってはいけません。それは当然のこと、なすべきことです。もし皆さんが会社の従業員であるなら、その従業員としてなすべきことがあります。他の人の仕事と比べたり、他の人の地位や立場と比べたりして、自分に与えられていることを「小さい」と思ってはなりません。なぜならそれらは神さまからのものだからです。

かつて旧約聖書に出ているヨセフという人は兄弟たちに妬まれて、エジプトの奴隷として売られてしまいました。大変な目に遭いましたが、髪の毛一本残らず数えておられるお方は、当然、彼のすべての境遇をも知っておられたのです。彼はそのお方を信じて、自分のおかれている状況、身分、仕事を受け入れ、忠実にエジプト人の主人に仕えました。後になお明らかにされたのは、それが神の御心であったということです。万物がそれぞれ、神さまのおかれた場所、神さまに聞き従っています。ヨセフもそうでした。

取るに足りない罪人に「信仰」を与えるために、キリストは来てくださいました。またそのためにご自身の足跡を残してくださいました。それについていきたいと思えます。神の遣わされた人間として、神さまがおかれた私の今あるところ、本来あるべき人間の姿で素直に生きていきたい、なすべきことを忠実に生きていきたい、願うものです。神はご自身を信頼するその忠実な者に桑の木も、湖も従わせてくださるのでしょう。

(ルカ17・5〜10)

祈り

○ 天地万物を創り、なくてはならぬものを与えてくださいます御神。

秋の深まりを感じ、木々の葉が色づいてくるのを見ながら、集って参りました。気づかなかったところにも、季節の色が浮かび上がっているのを見ながら、わたし共は心の深いところでああなたの御名を讃美できませす。そのような喜びの朝を今日も与えてくださっているのです。そして、自然の美しさをもってわたし共を榮しませてくださるだけでなく、あなたはわたし共に、なくてはならない家族、仲間、信仰の友を与えてくださいました。それらの人々の心遣いと愛の行為なくして、ここに集うことができなかったことを改めて思うものです。

あなたの恵みと人々の愛に支えられて、この週も過ごして参りました。この朝も、廻りの食卓であり、御国の先駆けである食卓を喜んで囲もうとしています。それだけに、今ここに知る感謝の思いがなぜ毎日の自分の生活を作らなかつたのかと反省を促されます。なぜあなたの祝福を信じ続けて生きることができなかったのかと改めて思います。その確信と平安がなかつたから、不機嫌になつて、周りの者に傷を与えて平

然とし、なすべき愛の務めを怠つて、それを良しとし、さまざま言い訳を見つけることに熟中してしまします。今、御前に自分の愚かさを恥じるものであります。

しかし、そのようなわたし共を、あなたは変わらざる恵みをもって生かしてくださいませ。その恵みの中に素直に立ち帰ることができませうように。ザアカイを訪ねられた主は、「下りてきなさい。きょう、あなたの家に泊まることにしている」と招き、「きょう、敷いがこの家に来た」と言われました。あの出来事が、わたし共の礼拝においても、わたし共とあなたの出会いとして起こりますように。わたし共も、主を招待する喜びに生きていきたいと願います。そのためにも、御言葉をお聞かせてください。御霊を注いでください。

今、互いのためにも祈ることができませうように。教会の中でまだ名前も知らない人のためにも自分の祈りが広げられていきますように。ここにあるとき、自分を送り出してくれた家族や、自分が傷つけてしまっているかもしれない人のためにも祈ることができませうように。

主の食卓にあずかるとき、わたし共の罪の足を主が僕となって洗い清めてくださったことを思い起こすことができませうように。そのようにして、贖われた自分のいのちの尊さを重り直して、望みをもって家路につくことができませうように、平安を与えてください。

主の御名によつて、感謝し、祈り願います。

アーメン

(加藤常昭「み前にそそぐ祈り」より)

今日のお知らせ

○ 先週は、よい天候が与えられ、主の恵みのうちにバザーを行うことができました。奉仕してくださった方々、お疲れさまでした。今日は礼拝後、バザー感謝会と小バザーを開きます。

○ 午後二時以降に、柏教会の方々が、バザーで用いる品物を取りに来られます。用意のあるお店は品物を駐車場に運んでいただくようお願いいたします。

○ 今日午後から、桜台教会がバザーを行います。

○ 午後二時、五分から一〇月定例役員会をカナルームで行います。

○ 二〇日(金)シオンの会をカナルームで行います。ハイデルベルク信仰問答の問一〇四〜一〇七を学びます。

○ 二一日(土)午後三時から、附属幼稚園のミュージカル「限り姫」が礼拝堂で行われます。

○ 米週から朝九時半と一〇時一〇分の二回礼拝の体制に戻ります。

○ 菊池美穂子姉は、今日、日本基督教団平塚教会の礼拝で奉仕します。

○ 葉園香音楽伝道師は、本日一四時より、川越教会で、また二一日(土)一四時より、牧方キリスト教会のコンサートで奉仕をします。どうぞお祈りください。

今日のスケジュール

- 一〇時 主日礼拝
礼拝後 小バザー店作り
愛餐会準備
 - 一二時 ホールでバザー感謝会
 - 一二時二〇分 愛餐会
 - 一三時～一四時 小バザー
 - 一四時 小バザー片付け
 - 一四時三〇分 役員会
- 礼拝終了後に、小バザーのための店作りをします。早く準備ができる店もあると思いますが、閉店は午後一時からです。その前にはお店を開かないようにお願いします。一二時からのバザー感謝会と、それに続く愛餐会に、皆さんご参加ください。午後二時に小バザーを終了します。後片付けに、どうぞご協力ください。

聖書の会

10月18日(水)

○朝の聖書の会

「憤慨した」

使徒17章16～21節

黄允湜 副牧師

○聖書の夕べ

「神のものは神に」

ルカ20章20～26節

古村和雄 牧師

ミニコンサート

11月9日(木) 12時30分開演

ピアノ演奏 鷺谷 幸

次週礼拝

●第1礼拝(午前9時30分)

讚美歌 1159番 讃21・361番

説教 「気を落とさずに祈ろう」

聖書 ルカ18章1～8節

説教者 黄允湜 副牧師

●第2礼拝(午前11時10分)

讚美歌 53番 382番

詩編 第95篇

説教 「伝道者の誇り」

聖書 IIコリント11章7～15節

説教者 古村和雄 牧師





1 回礼拝 (午前10時)

讚美歌 1159番

讃21-361番

説教 「感謝しましょう」

聖書 ルカ17章11～19節 (新約P142)

司式者 森 洋之 兄

説教 聖餐司式 吉村 和雄 牧師

前奏曲「我は汝に望みをおきたり」J.S.バッハ

○ 讚美歌第二編 59番

1. すべてのももの統らすかみよ

み名をたたえ ほめうたささぐ
みめぐみゆたけく 正義みつる
かみこそわれらの盾 また謙

2. よろこびもてささげまつる

うたはたかく みくらにとどき
ものみなどよみて こたえうたわん

「かみにぞみさかえ ときわにあれ」と

3. わが主イエスにしたがいゆき

こころひくく自あてはたかく
この世にわが主の み旨のなる
その日をのぞみて われらいそしまん

○ 教会学校生徒による讚美

「わいてくるよ」

○ ヴィオラによる讚美

「忘れられたロマンス」 F.リスト

○ 聖歌隊による讚美

「み翼のかげに」 I.D.カネー

み翼のかげに住めば あらし荒ぶ夜にも
我らに平安みちる 主のあがないのゆえに
主の愛離れて 誰が生きられよう
み翼のかげに 平安みちる

み翼のかげをゆけば 世の試みも喜び
悪魔の力も恐れはなし 我に平安とわに
主の愛離れて 誰が生きられよう
み翼のかげに 平安
永久にみちる 平安みちる

○ 讚美歌21-361番

1. この世はみな 神の世界

あめつちすべてが 歌い交わす
岩も木々も 空も海も
み神のみわざを ほめたたえる

2. この世はみな 神の世界

鳥の音 花の香 主をたたえる
朝日 夕日 空に映えて
み神のみわざを 語り告げる

3. この世はみな 神の世界

悪魔の方が 世に満ちても
わが心に 迷いはなし
主こそがこの世を治められる

聖餐曲「舟歌」J.777

後奏曲「フーガ」C.バッハ

※ 礼拝には、聖書、讚美歌、礼拝のしおりを毎週お持ちください。